

第2回公立大学法人山形県立保健医療大学 経営審議会 議事録

- ・ 日 時 令和6年6月20日(木) 13:00 ~ 14:45
- ・ 場 所 (オンライン)
- ・ 出席者 上月議長(学長)、熊谷委員(理事)、遠藤委員(理事)
佐藤委員(理事)、武井委員(理事)、林委員、伊勢委員
- ・ 事務局 原田事務局次長、庄司総務課長、漆山教務学生課長、
工藤総務企画主査、佐藤主査(総務課)
- ・ 欠席者 内藤委員(理事)

1 開 会

2 議事録署名人の指名

審議会議長である上月議長が、議事録署名人として熊谷委員並びに伊勢委員を指名した。

3 審議事項

(1) 令和5年度決算について

- ・ 総務課佐藤主査から下記説明をしながら報告がなされた。
- ・ 資料1-1 令和5年度決算の概要について、公立大学法人は、事業年度の終了後3ヶ月以内に設立団体の長に財務諸表等を提出し承認を受けることになっており、本年度は、本日の報告後、6月末、知事に提出する予定であることが説明された。
- ・ 地方独立行政法人会計基準の改訂に伴い、(貸借対照表の)負債の部の資産見返負債が廃止されたこと、この処理に伴い純資産の部の利益が大きく増えていること、また、(損益計算書の)経常収益において、会計上、固定資産の取得に要した費用も本年度の収益として計上されるという変更点もあり、施設整備の増により運営交付金収益が増えていること、加えて、今年度は臨時利益を計上していることなどを説明するとともに、そのほかキャッシュ・フロー計算書、利益の処分に関する書類の概要について説明がなされた。
- ・ 資料1-2～資料1-4については前述の詳細資料となっている旨説明された。

〈監査報告について〉

- ・ 資料1-5により監事から下記の通り監査報告がなされた。
- ・ 伊藤監事より、業務監査に関し、業務の実施状況について適正に運営されており、特に指摘すべき事項はないこと、その他、内部統制システムの整備及び運用に関する状況や役員の不正行為及び法令等に違反する事実の有無、事業報告書の適正さに関しても特に指摘すべき事項はなく、適正に運営されている旨報告がなされた。
- ・ 高橋監事より、会計監査に関し、監査時に諸々質問し、また、今季取得した固定

資産の現物の実査等も含めて監査を実施し、結果としては、財務諸表等については適切に処理・表示されていること、利益の処分に関する資料については法令に適合していること、よって、適正な会計処理がなされていることが報告された。

〈委員からの質問〉

[林委員]

Q. 資料1-4 p51 “学生支援の充実”の3つ目の項目に、カウンセラーの配置及びストレスチェックを実施したと記載があった。アカデミックハラスメントを含む様々なハラスメントが問題になっていると思うが、これに関連して、①本学で中途退学者及びメンタルの問題で休学をしている人はいるのか？②このようなストレスチェックは学生に対して行ったということだが参加率はどれくらいだったか？

[遠藤委員]

A. ①休学をし、その後退学という学生もいるのが事実です。②ストレスチェックの参加率は手元なく即答できない。

⇒後日、メールにて回答することとする。(下記回答 R6.6.21)

○実施内容

- ・本学では、学生が悩みや心配事を相談できるよう、学外カウンセラーを配置し、学生の相談に対応している。
- ・令和6年1月、学生の心の状態を把握し、早期の対応に繋げる仕組みづくりのため、試行的にストレスチェック（こころの健康チェック）を実施。
- ・10個の質問に5段階で回答し、その合計点数で、学生が自分の心の状態をセルフチェックする。(所要時間2分程度)
- ・セルフチェック後、その合計点数を、フォームズのアンケートで回答する。
- ・参加は任意。

○回答者数

- ・416人中 69人 (回答率：16.6%)

○今後

- ・令和6年度から、本格実施していく。

[林委員]

Q. 休学の実態はあると思うが、その数が増えていく傾向なのか、減っていく傾向なのかということが大事だと思い、数字について質問した。

[遠藤委員]

A. 数字については、極端に増えている減っているという経年で決まったパターン（傾向）は無いが、その年によって、多い学年、ほとんどない学年がいるということになる。

[佐藤委員]

A. 理学療法学科・作業療法学科についても看護学科と同様（上記と同様）である。
作業療法学科に関しては、実習前後に学生のストレスチェックを実施し、自己評価させている。

[上月学長]

Q. ハラスメントの相談状況についてはどうか。

[遠藤委員]

A. 教員から強い口調で言われたとか、友達関係で悩んでいるという、所謂、悩み相談程度の事案はあるが、セクシャルハラスメントと明確に言及する案件は、ハラスメント相談室には上がっていない。

[林委員]

- ・ ぜひこれから相談をしやすい体制を作っていただきたい。

[武井委員]

Q. 資料1-1 p8 キャッシュ・フロー計算書の概要について、業務活動で5,700万円の収入増とあったが、具体的な内容はどういうことで収入がアップしたのか教えていただきたい。キャッシュ・フローなのだから、何か買ったらキャッシュは減るはずだと思う。

[事務局（佐藤主査）]

A. 資料1-1 p4 貸借対照表に主な増減理由を掲載している。教育研究機器等高額な機器などを導入したことにより固定資産が増加し、これらに伴ってキャッシュ・フローにも影響がでているところ。これらの固定資産に関しては、支払いが4月以降になっている関係で3月末時点では支払いが済んでいないため、それに伴う現金支出に関しては4月時点では決算には反映されておらず、現金残高として、3月末には増えているように見えているという状況である。

(2) 令和5年度業務実績報告書について

- ・ 工藤総務企画主査から資料2により、令和5年度業務実績報告書について、説明された。
- ・ 令和5年度は、第3期中期計画の3年目で、計画事項196項目中、年度計画を上回って実施しているS評価の項目が10項目、年度計画を十分に実施しているというA評価の項目が186項目、年度計画を十分には実施していないというB評価及び、年度計画を実施していないというC評価の項目がそれぞれ0項目となり、全ての計画が、S評価またはA評価になった。
- ・ 全体として年度計画通りの取り組みが行われ、所期の目的通り順調に業務を達成する成果を収めることができた。
- ・ 説明後、委員から下記質問があった。

<委員からの質問>

[武井委員]

Q. UI ターン促進のための仕組み作りについて非常に興味がある。よろしければ何か協力できるようなことがあればと思い伺ったが、この仕組みはホームページ等で見ることができるものか？

[上月学長]

A. 今のところはまだオープンにしていない。対象者に関しては、本学の卒業生に限定している。昨年のお盆の頃にアンケートに答えていただき、メールアドレスを回答してくれた半数の人たちに、様々な就職情報をダイレクトに情報提供していこうという取り組みになる。

加えて、例えば卒業生も 2,000 人おり、その中にはモデルケースになるような方も沢山いるので、そういう方の活躍をどんどんホームページ等で紹介をすることで、UI ターンの促進にも繋がっていくと捉えている。

[武井委員]

- ・ 何か協力できることあれば、言っていただければ最大限協力する。

[上月学長から補足説明]

- ・ 卒業生の山形県内定着率は決して良い状況ではなく、コロナが明けて人材が首都圏に集中していくと、県内の医療業界に限らず多様な業種で人材獲得の問題が出てくると思われるので、是正しなければと考えている。
- ・ 本学の今年の病院説明会については、少しやり方を変えたいと考えている。参加する全ての医療施設の方から参加する全ての学生に対して、一堂に会した状態で、自らの施設の魅力等をプレゼンしてもらう予定である。
- ・ 医療施設同士が一堂に会する場で、プレゼンを通じ、施設側にもそれぞれの施設の強みや魅力を知ってもらい、就職先として選択してもらえる施設の待遇はどういう内容なのかを考えていただく狙いがある。学生も新たな発見があるだろうし、各施設の就職担当者の意識改革にも繋がるのではと考えている。

[林委員]

Q. 新卒者の県内定着率に関する話題が出たので質問させていただく。県内定着率を向上させるため、大学では様々な工夫をされていると思うが、数字で見ると 50%前後ということで、なかなか向上していない現状と捉えている。これに対する方策について、同じことを繰り返し行っても同じような結果になるのではないかと想像がつく。只今上月先生がおっしゃったような方策を数多く講じていただければという希望を含めて質問させていただいた。

[上月学長]

A. 私も同感。毎年新しい方策を取り入れるなど趣向を変えていかないといけないと考えている。地方は人口減少が加速しており、地域の魅力が薄れてくると、人材も離れていく。学生への就職先に関する情報の発信の仕方も工夫が必要なので、今年は病院説明会のやり方を変えてみようと考えたもの。

- ・ 一方、我々に出来ることにも限りがあるので、県には、地域定着率に関して、山形

に勤務したいという学生の意欲を強固にするために、地域定着卒を希望する学生全員が奨学金を受け取れるような仕組みづくりを働きかけている。

- ・ 病院説明会では、施設側にも待遇や職場環境について改めて考えていただくため、他の病院では人材獲得のためにどんな工夫をしているのか、ということを学んでいただく機会になればいいと考えている。

(質疑概要 以上)

- ・ 以上、資料2について、原案とおりに承認された。

(3) 令和6年度年度計画について

- ・ 工藤総務企画主査から資料3により、令和6年度計画については、昨年度末、学内の評価委員会や理事会で協議のうえ作成したものであること、本年度最初の定例の審議会が本日となったことで、このタイミングで協議事項として挙げていることを補足し、下記のとおり概要の説明がなされた。
- ・ 本計画は、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の計画として定めたものであり、主な新項目として、IR室の設置により、教学マネジメント体制を整えることや本学の紀要をジャーナルとして見直すことを記載している。
- ・ 計画項目については再掲項目や重複項目を整理し、令和5年度計画の184項目から149項目に整理した。
- ・ 以上、資料3について、原案とおりに承認された。

4 報告事項

(1) 令和6年度入学者の状況について

- ・ 漆山教務学生課長から、資料4に基づき、令和6年度入学者の状況について、学部の状況、大学院博士前期課程の状況、同博士後期課程の状況、科目等履修生の状況について報告がなされた。

〈委員からの質問〉

[伊勢委員]

Q. 入学者の状況について、外国人の方がいらっしやらないように見受けられた。観光業界は円安でインバウンドが拡大しているが、今後、外国籍の方の入学については検討されるか。

[上月学長]

A. 全国的にも国際交流が盛んになってきていると捉えている。本学においては本年度、コロラド州立大学との交流に加え、台湾の大学からも学生が研修に訪れます。また、上海の大学との協定も締結したので、今後、上海との交流の動きも増えていく。

[伊勢委員]

Q. 政府では外国人観光客の受け入れを促進している。山形県内にもどんどん流入してくると思われる。そうすると、海外の方が、県内の病院にお世話になる機会や、県内大学への留学を考える機会なども増えてくると思われるので、国際交流を通じて海外

の方との接点を常に意識するような教育も重要な考え方になると思っている。

[上月学長]

A. 私が本学に着任してから、3大学と国際交流協定を締結した。従来の2大学と合わせ、計5大学と国際交流協定を締結している。そういう意味では、本学においても国際交流のマインドを活性化する環境は整ってきている。

(2) 令和5年度卒業者の状況について

- ・ 漆山教務学生課長から、資料5に基づき、令和5年度卒業者の状況について、国家試験受験状況、就職・進学状況の説明とともに報告がなされた。

(3) 令和5年度教員業績評価実施結果について

- ・ 原田事務局次長から、資料6に基づき、令和5年度教員業績評価実施結果について、評価対象者、評価者評価の結果の説明に加え、最も優れた業績を上げた教員1名を最優秀者として、また、39歳以下の若手教員のうち最も優れた業績を上げた教員1名を若手教員奨励賞として表彰状を授与し、併せて、特別研究費を交付していることを補足し、報告がなされた。

5 その他

6 閉 会

次回は令和6年9月9日（月）13時00分から開催予定。

※ 配布資料

- 資料1-1 令和5年度決算の概要
- 資料1-2 令和5年度財務諸表
- 資料1-3 令和5年度決算報告書
- 資料1-4 令和5年度事業報告書
- 資料1-5 令和5年度監査報告
- 資料2 令和5年度業務実績報告書について
- 資料3 令和6年度年度計画について
- 資料4 令和6年度入学者の状況について
- 資料5 令和5年度卒業者の状況について
- 資料6 令和5年度教員業績評価実施結果について

議事録署名人

議 長
